

2017 年度 学校関係者評価
報告書

学校法人滋慶学園
東京医薬専門学校

作成日：平成 29 年 6 月 11 日

学校法人 滋慶学園 東京医薬専門学校
第 1 回学校関係者評価委員会議事録

議事録作成者：西田 茂男

1. 開催日時 平成 29 年 6 月 10 日（土） 10:00～12:00

2. 開催場所 東京医薬専門学校第 1 校舎 601 教室

3. 参加者 学校関係者評価委員

保戸田 武	地域代表	(葛西仲町町会)
彦田 英治	地域代表	(葛西仲町町会)
五十嵐 樹	業界代表	(笹本保育園)
村瀬 恵子	業界代表	(葛西昌医会病院)
篠原 陽子	業界代表	(日本チェーンドラッグストア協会)
下川 重明	業界代表	(株式会社こくみん)

学校側参加者

須田 英明	東京医薬専門学校	学校長
居関 暁昌	同	事務局長
西田 茂男	同	教務部長
篠田 美和	同	広報センター長
福田 昌彦	同	キャリアセンター長
鈴木 保夫	同	学生サービスセンター長
抜井 健之	同	言語聴覚士科学科長

4. 議事

(1) 学校長挨拶

(2) 各委員の紹介

(3) 学校関係者評価委員会の目的確認

平成 28 年度の報告に対し、ご意見・評価をいただくことで教育活動の質の向上、学校運営の改善・強化推進の機会とする。

(居関)

職業実践専門課程の認可の 5 つの条件を説明。東京医薬では現在 9 学科が認定を受けており、本年度は歯科衛生士科 I 部と歯科衛生士科 II 部の申請を行なう。

(4) 平成 28 年度自己点検・自己評価の内容と平成 29 年度重点目標の説明

① 教育理念・目的・育成人材像

(居関)

学園では現在 70 校（学生総数約 35,000 人）を運営。学園の基本理念である「職業人教育を通して社会貢献を行なう」、建学の理念である「実学教育・人間教育・国際教育」を大切にしており、これらは研修等を通して全職員が共有している。育成人材像としては毎年学科ごとに養成目的・教育目標・学年目標を定め、カリキュラムに沿って教育を実施している。

② 学校運営

(居関)

運営方針等々を定めて運営しており、問題ないものと考えている。

③ 教育活動

(西田)

指標として退学者の推移（平成 26～28 年度）を説明。

昨年度は退学者が増加しており、その要因として入学生の多様化が進んでいることが挙げられる。精神的な問題や家庭環境に問題を抱える学生の増加がみられる。

④ 教育成果

⑤ 学生支援

(西田)

平成 28 年度の国家試験結果を報告。

臨床工学技士科は前年度より合格率上昇。救急救命士科は全国平均を下回り、言語聴覚士科は全国平均に近い。学生の多様化に対応する為、平成 29 年度以降は授業改革への取り組みを積極的に行なう。

(福田)

平成 28 年度の就職実績は在籍 441 名に対し、就職希望者数 364 名、就職者率 83%。就職者率が非国家資格系 87%、国家資格系 80%。非国家資格系はカリキュラムに合わせた受験指導、国家資格系は年度内の内定率の向上を目指し学科との連携及び個別明断の実施を行なう。

⑥ 教育環境

(居関)

後程、校舎見学を行い説明を行なう旨を伝えた。

⑦ 学生の募集と受け入れ

(篠田)

平成 29 年度における本校全体の入学者数は 467 名。非国家資格系の入学者数が課題である。留学生在籍数は昨年度 5 名、本年度 12 名に増加しており、コンプライアンスを重視しつつ受け入れ態勢の整備を行なう。

<質問>

(問) 夜間部の学科も実習はあるのか。ある場合、仕事をしている学生は実習期間は仕事を休み、実習を行っているのか。

(答) 夜間部の学科も実習があり、実習期間は仕事を休んでいる。

<質問>

(問) 留学生の多い学科と留学生の国籍について。

(答) くすり総合学科と化粧品総合学科への留学生が多い。国籍は中国・韓国に加えて台湾・ベトナム等多国籍化しており、言語のフォローが課題になっている。

(問) 受入留学生の日本語能力のレベルについて。

(答) 個人差があるが、日本語能力試験の基準を満たした学生を受け入れている。

⑧ 財務

⑨ 法令等の遵守

(居関)

学園法人で監査を含め取り組んでおり、特に問題はないと考えている。

⑩ 社会貢献

(西田)

昨年度における各学科の実施状況について説明。言語聴覚士科(セラピールームを利用し近隣の子供への支援)、救急救命士科(消防団活動等)、視能訓練士科(小学校での健診補助)、こども心理科(こども教室)。

(居関)

職業人教育を通して社会に貢献することが学園の理念になっており、より地域・業界への貢献出来るような取り組みを行なっていく。

(5) 教育環境（教室・実習室）見学

西田の引率・説明により、各校舎の見学を行なった。

(6) 総評

（彦田）

人間教育は社会に出る上で最も大切である。医薬の学生はと礼儀がよく、これは先生方の教育の賜物であると考えている。

社会貢献の点で、町会としては年2回の美化運動と防災訓練を実施しており、学生さんにも参加いただくことで、地域からの印象が変わると考える。

（保土田）

中学校では不登校が増えており、先程の退学者との関連があるのではないかと考えています。

人間教育・社会貢献に関し、地域に関わってもらう事で学生さん自身の新しい発見にも繋がると思うので、町会の活動にも是非参加していただきたい。

（村瀬）

自分が学生だった頃と比較して、医療系専門学校も大きく変わってきているのを感じた。

医療現場ではメンタル面の理由から離職する率が高くなっており、コミュニケーション能力が不足している事が多いように感じる。学生のうちから地域との連携等を通じて自分の居場所を見つけ、人に支えてもらったことを感じる事で、社会に出て自分が今度は支える立場にやりがいを感じて欲しいと思う。また、大学によっては地域活動に参加することで単位を与えているところもある。

（篠原）

15年ほど関わってきたが、社会環境の変化に対応してきている学校だと思っている。学生支援の部分では、出来ていない事を改善していただきたい。

今の学生は人付き合いが苦手である。これを改善するために地域の人との交流や、留学生との関わりなども役立つのではないかと。

授業の形態を聞くことから参画する形にとのお話では、それがプレッシャーになる学生もいるかもしれないが、やることによって楽しい事もあると言うことを教えることで社会に出た時に役立つと思う。

（下川）

弊社ではドラッグストアの経営をしており、現在20名の東京医薬の卒業生が登録販売者として活躍している。今度、原宿の店長になる者もいる。

登録販売者に限ってではないが、高校生に資格のアピールをどんな風に行っているのか？

(篠田) オープンキャンパス等で資格と仕事について伝えているが、伝え方については対象者も変わってきているので模索中である。

(五十嵐)

幼児教育は全てアクティブラーニングだが、専門学校でもそうなのかと思った。現場で本来求められるのは、マインドチェンジ(社会人としての心構え)、スキルやモチベーションであるが、今の方々はコミュニケーション能力が一番課題になってくる。人の意見を聞け、自ら聞くことができる方はどんどん伸びるが、やりました、知っていますというタイプは伸びていけない。現場では対策として、トレーナー制度を取り入れて研修やトレーニングをしていく体制にしている。場所によってはチューター制度で相談できる環境をつくり人材育成を行なっている。

(学校長)

退学者・休学率・標準年限内修業率・国家試験合格率・就職者率等々改善の余地がある。また、今後も地域との連携を行い、Wim-Wimの関係を築くことができるように考えていきたい。

(7) 委員からの評価

※学校関係者評価委員会 評価結果参照